

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 ニコニコキッズこあ		
○保護者評価実施期間	2025年12月8日		2026年1月8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	2025年12月8日		2026年1月8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・集団生活や個人での困り感を、小集団活動の中で取り組み自信をつけられるようにしている。活動の中で静と動の区別が身につける事ができる環境にしている。気持ちのコントロールや切り替え等が経験できるプログラムになっている。	・利用者が伸び伸びと過ごす時間と活動に集中できる時間としっかり分けている。利用者のその時の様子によって個別での対応などもできるように配慮している。決まった活動やプログラムにこだわらず、個人を大切にしながらも、集団活動に適應できる力や経験をできる場になっている。	・支援者の分散（支援者が同じ利用者だけに関わらないようにしている。支援者全員が一人一人を見ていることが分かるように対応している。）
2	・園での過ごし方と差がでないようにしている。園の先生方との連携を保育所等訪問支援や送迎時などで、こまめに図っていることもあり、利用者のその時の状況によって支援方法を変えることができている。	・最近の園での様子や、自宅での様子は出来るかぎり聞くようにしている。様子によっては、支援者同士でどうしていくのか話し合っ、情報の共有をしている。保護者や園の先生方に療育的視点としてアドバイスをすることもある。	・こあでの活動だけではなく、定期的に屋外活動や鹿屋市の施設（アイランドスポーツキタガワ、イオン、公園、健プラ）などを活用している。最近では、同じグループ会社の晴れる家を活用し、動物の触れ合いやこあの畑作り、馬やポニーの乗馬体験もしている。社会性や人間関係、コミュニケーション能力なども伸ばしていく。
3	・小集団活動の中でも、利用者のニーズに合わせて個別での対応もすぐできるようにしている。活動以外で（遊びやおやつ）などの時間でも、有効的に時間を使い、個別に関われるように会話やさりげないサポートをするように心がけている。	・利用者の表情や機嫌、話の中での困り感などにすぐに気づけるようにしている。気になったことは支援者同士で共有している。	・スタッフ共有のボードやラインワークスを活用して、休みの人も分かるように記録を残す。 ・保護者や園の先生方と話をしたことを、スタッフ同士で情報共有するようにしている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・机上課題での療育的知識。	・療育専門の教材活用が少なく、知識不足部分もある。研修等を通して、基礎知識や発達年齢を理解して学んでいる。	・常にスタッフが研修等を通して、学ぶようにしている。インスタグラムなどの情報を活用し、他事業所で取り組んでいることなども情報の一つとして取り入れていることもある。
2	・幅広い家族支援	・送迎サービスにおいて、園への送り迎えがほとんどということもあり、保護者と直接話し合う機会が限られてしまう。ラインや電話でのやりとり、対応となってしまうことが多い。	・定期的に事業所側が開催する保護者会等に多くの保護者が参加できるように働きかけ、家族支援の充実化を目指す。 ・保護者の迎えの際は、児童の情報共有ができるように心がけ、保護者が悩みを引き出せる機会を提供していく。 ・ラインやHUGの活用を活かしながら、孤立しない家族支援を目指していく。
3			